

# 荘川烏帽子ヶ岳 1,625.3m・オサンババ(山中山)1,631.4m 往復

平成22年3月1日(月)

メンバー:IO、KO(記)

天候:晴れ後曇りから雨

コースタイム:めいほうスキー場top(8:30-8:40)～オサンババとの分岐点(9:05)～烏帽子岳山頂(10:40-11:15)～オサンババとの分岐点(13:00)～オサンババ山頂(13:30-13:40)～スキー場top(14:10)

概要:スキーシーズンにめいほうスキー場から簡単に登れる烏帽子岳とオサンババを併せてピストンすることにした。

前からオサンババとは面白い名前だと思っていたが、下調べをするとオサンババは鷲ヶ岳、烏帽子岳とともに荘川三山とよばれており、オサンババの名前は今西錦司氏の命名によること、さらに荘川三山の名づけ親も今西氏であることがわかった。元は兎ヶ馬場(ウサンババ)とよんでいたものを今西氏がオサンババと聞き間違え、この名前がしだいに広がったそうである。何とも面白いエピソードがあったのだ。

さて、スキー場 top から烏帽子岳までは3つのピークをアップダウンしなければならないので、山スキー向きではないが、スノーシューハイキングには向いている。スキー場のツアー案内に烏帽子岳までのスノーシューハイキングのイベントが紹介されていた。

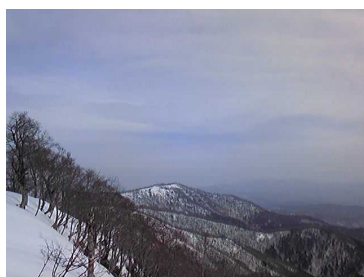
山頂までの所要時間は約2時間余り。私は、行きはシールを付けたままでアップダウンしたが、帰りは滑りを楽しむためにシールの着脱を繰り返した。相棒は、行きはスノーシューのみ、帰りはミニスキーとスノーシューをピーク毎に交換した。

リフトの始発に乗車して8時30分にスキー場 top に到着。早速準備に取り掛かる。天気はまずまず。午前中は大丈夫であろう。ただ空はかすんでいるので乗鞍や御岳までは見えない。

コース上にトレースはあるが今日の先行者はなし。ゲレンデから少し登ると視界が広がり、烏帽子岳の山頂が尾根上に見えてきた。トレースはオサンババに続いているためトレースを放れ、烏帽子岳方面にルートを取る。ところどころ県界尾根を示す赤いプレートが付けられているので目印になる。これより先3つのピークをアップダウンしながら、烏帽子岳山頂に10時40分に到着した。途中、白山や大日岳を展望することができた。

山頂にて30分程過ごしてから帰路に付く。昼過ぎから天気は急激に悪化し始め、オサンババとの鞍部に付く頃にはすっかり曇天となった。

これより先トレースを追ってオサンババのピークに立った。山頂からは山中峠を經由してゲレンデに戻るのが良いコースのようであるが、今回は同じトレースを辿ってゲレンデに戻ることにした。ゲレンデに戻る頃には雨が降り出したが、今回も楽しいスノーハイキングとなった。



尾根上からオサンババ方面を望む



大日岳方面



烏帽子岳近く



スノーシューで歩む



オサンババ山頂



烏帽子岳山頂